

## 新型インフルエンザの発生に備えて

区は、18年3月に「新型インフルエンザ行動計画」、19年6月には「新型インフルエンザ対策緊急推進プラン」を策定し、新型インフルエンザの発生に備えて、取り組みを進めています。

本号では、厚生労働省新型インフルエンザ対策委員会座長・岡部信彦さんと区長の対談で、新型インフルエンザの基礎知識や、区や区民の皆さんがすべきことなどについて紹介します(1・2面)。また、3面では「新型インフルエンザとは何か」を解説、4面では保存版として「新型インフルエンザの流行に備えよう」を掲載し、家庭でできる対策を紹介します。

—問い合わせは、杉並保健所保健予防課☎3391-1025へ。

▶医学博士・岡部信彦さん



### 対談

### 新型インフルエンザの発生に備えて、 私たちがすべきこと

**岡部** 病名が広く知られているだけに、インフルエンザ程度ではないかという印象と、「新型」というのがピンとこないと思います。新型というのには「ヒトにとって新しい」インフルエンザウイルスの登場で、誰もかかったことがなく抵抗力も持っていないということ。インフルエンザウイルスは二〇〇三〇年に一回大きい変化を起こし、人類にまるで災害のように降りかかってきます。香港型の登場以来これまで数十年起きていないので、いつ起きてもおかしくない。いろいろな対策を世界レベルで準備しましょう、というのが今の状況です。「新型インフルエンザ対策」という今起きていないものに備えるのは、おそらく人類にとって初めての経験だろうと思います。

▶区長・山田 宏



### 新型インフルエンザとは？

〈岡部信彦さん略歴〉WHO(世界保健機関)西太平洋地域事務局伝染性疾患予防対策課長などを歴任し、現在は国立感染症研究所感染症情報センター長、厚生科学審議会感染症分科会委員、厚生労働省新型インフルエンザ対策委員会座長も務める。

**区長** 人類にとって免疫のないインフルエンザが来ると、患者は今までの二倍、三倍に膨れ上がると。  
**岡部** 例えば病院や医院の外でも大混乱で、ベッドも足りない。大勢の人が仕事を休み、社会的にいろいろ不便になってくる。これに対し、行政側はその整理をやらねえといけない。医療側も、ちゃんとした医療を提供する体制を作っておくことが必要です。  
**区長** 二十世紀に三回インフルエンザの猛威があったそうですね。一番大きなスペイン風邪、アジア風邪、香港風邪。これらは大体鳥から来るんですよ。  
**岡部** 鳥から直接ではなくて豚を介してというのがこれまでの説です。鳥がかかる鳥インフルエンザウイルスは、遺伝子の構造がヒトと違うのでヒトには来ないといわれていたのですが、一九九七年の香港の事例で、感染することがわかりました。現在の状況は、カモなどの渡り鳥の持っているインフルエンザウイルスがニワトリやアヒルに感染し、カモは平気だがニワトリやアヒルには致命的となり、病気の鳥と密接な接触のあったヒトに、偶然感染がおよぶと見られています。まだ少数ですが、そういうヒトが増える中でウイルスの遺伝子構造がヒトインフルエンザ型に突然変異をすれば、ヒトにかなりやすくなると危惧されています。

**区長** 二十一世紀に入ってから、今ニワトリまで来ている。鳥からうつった人もいます。ヒトからヒトにはまだいっていないが、これも時間の問題といわれているのは本当ですか。  
**岡部** 今、人類は、インフルエンザに関するくじをいっぱい買っている。当たる確率が次第に増えてきている。また、歴史的な流れでも、いつ来てもおかしくないと考えられます。

**岡部** 日本で新型インフルエンザが生まれる可能性は、極めて少ないと専門家は考えています。

**区長** 日本では、インフルエンザで毎年一万人前後が亡くなっている。これが「新型」だと少なくて一〇万人、多いと六〇万人、つまり多くの人がインフルエンザで死んでしまう。  
**岡部** 新型インフルエンザは感染症ですから、まったくゼロにするのは無理でしょうが、いろいろな工夫をして被害を少なくすることはできるでしょう。  
**区長** 仮に、今年発生したらどのようなことが考えられるのでしょうか。  
**岡部** 日本で新型インフルエンザが生まれる可能性は、極めて少ないと専門家は考えています。



**区長** 海外でヒトとニワトリが混じって暮らしている地域、ニワトリの病気がコントロールできないような地域で起きる可能性が高いでしょう。そして、発生状況がわからないまま、日本に持ち込まれる可能性はある。世界同時に発生がわかるということはない、ありうると思いますね。  
**区長** そうなると、行政として「杉並公会堂のイベントは中止」というようになっていくだろうと思いますが、わかった時点でかなり深刻な事態ですね。  
**岡部** それもレベルによって違いがありますね。患者さんが少数の段階ならば、感染がそれ以上広がらないように軽い人も含めて入院してもらうとか、接触した人を調査する(積極的疫学調査)とか、きちんとした封じ込め対策が必要でしょう。ところが、感染者の数が増えてきた状態では、重症患者さんは入院ですが、軽症者は家で様子を見ていただく。そして多くの人が集まるような施設は、休むとかペースダウンする。イベントなどは一時中止ということが必要になってくるでしょうね。

**岡部** はい。狭い範囲で感染者が見つかっているときは状況把握も容易で、受診や調査など、保健所から具体的に指示が出せるでしょうが、それ以上広がったら、社会全体の対応や制限が必要だと思えますね。

**区長** そのときは社会的な活動はストップですね。行政は、なるべく人ごみに行かない、症状のある人はマスクを着用するということを知らせていく必要がありますね。  
**岡部** はい。狭い範囲で感染者が見つかっているときは状況把握も容易で、受診や調査など、保健所から具体的に指示が出せるでしょうが、それ以上広がったら、社会全体の対応や制限が必要だと思えますね。



## 新型インフルエンザ流行時の注意

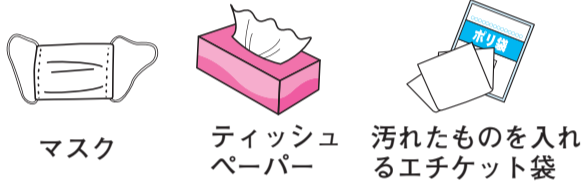
- ① 不要不急の外出を避けて、なるべく人ごみに出ない。
- ② 外出先から帰宅したら、うがい、手洗いを徹底する。
- ③ 高熱などの症状が出たら、保健所などの指示に従い、なるべく早く受診する。
- ④ 症状が出たら、他の人にうつさないためにも、外出を控えマスクを着用する。  
※「咳エチケット」を守りましょう(下記)。
- ⑤ 2週間程度の生活用品などの備蓄をしておく。

### 「咳エチケット」とは

インフルエンザに限らず、くしゃみや咳などのしぶきの中には、ウイルスや菌が大量に含まれています。このしぶきに含まれるウイルスや菌を吸い込んだり、手などを介して口や粘膜を通して感染が広がっていきます。

このため、症状がある方は、なるべくマスクを着用するなど、「咳エチケット」を守り、周囲に感染させないように注意しましょう。

「咳エチケット」3点セット



- 咳やくしゃみをするときは、ティッシュペーパーなどで鼻と口を押さえ、できるだけ人から1m以上離れる。
- 鼻水やタンなどを含んだティッシュペーパーは、すぐにフタ付のゴミ箱などに捨て、散乱ないように処理する。
- くしゃみなどのしぶきを飛ばして他人に感染させないために、咳をしている人はマスクを着用する。



新型インフルエンザが発生した場合、沈静化するまで数週間単位での警戒が必要になるといわれています。また、自然災害と異なり全国的に流行する可能性があるため、他都市からの救援物資やボランティア応援も難しいと考えられます。そのため、左記のような注意が必要です。

## 保存版

# 新型インフルエンザの流行に備えよう

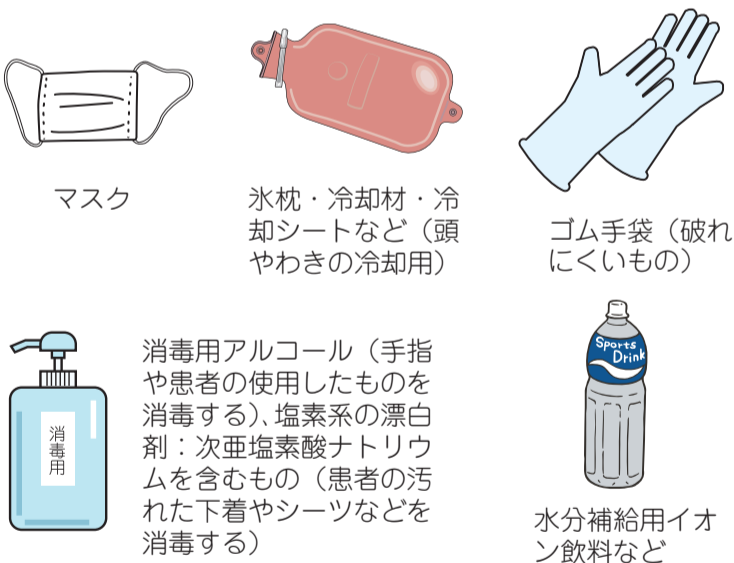
## 家庭でできる対策

## 備蓄品の例

参考：「新型インフルエンザ対策ガイドライン」厚生労働省

### 医薬品など

#### 〈新型インフルエンザ対策物品〉



#### 〈常備品〉



※薬の成分によってはインフルエンザ脳症を助長する可能性があります。購入時に医師または薬剤師に確認してください。

### 一般災害用品

一般災害用品は地震などの災害用品と同じですが、できれば2週間分の備蓄が望ましいといわれています。

#### 〈食糧品〉



#### 〈日用品〉



【問い合わせ先】 杉並保健所保健予防課感染症担当 ☎3391 - 1025